

令和6年度事業報告（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

1. 視覚障害者の更生相談事業

（1）外国籍視覚障害者に関する障害基礎年金、福祉施策等

日本語教材の照会や視覚障害がある児童・生徒への日本語指導についての相談、海外の視覚障害者及び支援者からの日本語学習についての問い合わせが多くなり、その都度、相談に応じた。とりわけ在住する外国人の増加の中で、在日している視覚障害者の相談が出てきている。

（2）海外からの視覚障害者の日本留学

モンゴル盲人協会の継続的な指導者育成方針の下、元留学生のサポートや、マレーシアやキルギスでの後輩の育成に向けた取り組みが見られる。一方、韓国、ネパール、スペインの留学希望の問い合わせがあったが、留学目的や年齢の問題で対象者とはなっていない。

（3）各国の視覚障害者事情についての情報提供

韓国の視覚障害者の就労での人的なサポートの制度説明を、元留学生との連携で『ロータス通信』で紹介した。また、台湾のヘルスキーパーの現状について、元留学生達への聞き取りで整理した。

HPに「世界のマッサージ事情」の項目を作り、セントルシアでの取り組みの紹介を行った。

また、ミャンマー地震後の視覚障害者の状況レポートを元留学生の活動として開始した。

2. 支援事業

（1）留学生の受け入れ

モンゴルの女性、1994年生まれのオトゥゴンペルリ・ブンサルドラムさん（以下、ボンサルさん）が、モンゴル盲人協会の推薦で、日本語力も問題ないということで、11月27日、モンゴル盲人協会の代表でIAVI元留学生でもあるガンゾリグ氏と来日。来日後、行政関係の手続き等を行った後、早速、日本語、点字、生活訓練を中心とした盲学校入学前研修を開始した（生活訓練については、日常生活は問題ないので、歩行訓練だけとした）。

また、宿泊・食事の支援も実施した。宿泊支援は基本的なことで、当初は2人でスタートして、4人の方をお願いした。皆さん他の仕事の調整をしてくださり、寒い中、担当してくださった。

1月23日、筑波大学附属視覚特別支援学校の入学試験を受検して、27日に合格となった。

2月25日～27日まで、盲学校の寄宿舎に泊まり込みで、筑波大学附属視覚特別支援学校の入学前指導を受けて、入学の準備をしていった。

また、遅ればせながら3月28日の理事会において90番目の留学生として正式に決定した。

（2）在学中・帰国後の各国留学生の支援等

○在日中の留学生の入学式・卒業式への出席はこれまで欠かさず行ってきた。上述したボンサルさん以外にも、サマットさん・メイさん・コーコーさん・ファイズさん・ダグワさん・シ

リンさんが、それぞれ、入学・入所・進級などを果たした。

○冬期、春期の盲学校寄宿舎の閉舎時、及び入学前研修で宿直員として4人の方（当初は2人）に委託した。

○在学中の留学生の在留資格の更新（延長申請）や在留資格の変更の際の手続き・出入国の介助を行うとともに、留学生の病院引率等、在学中のケアにも積極的に取り組んだ。

○モンゴルのマンダハさん、ガンゾリグさんが来日した際、それぞれの立場から、モンゴルの視覚障害者を知る講演会を行った。

また、ミャンマーのリンさん、台湾のシズさんの来日に際し、歓迎会を開催し、たのしく交流をした。

○交流・情報共有の取り組み

2年前から、2カ月に1度、Zoomで元留学生達を結び、日本の理療関係の方も加わり「マッサージ研修会」を開催して、各国の視覚障害者のマッサージ状況の交流などを行っていたが、今年度は24年4月の1回のみ開催で課題を残した。

（3）日本語サポート・日本語サポート研究会

○事務局の庄さんが中国、スリランカ、メキシコの視覚障害者にオンラインサポートを継続して行った。

また、スペインの日本語教師から日本留学の問い合わせがあったが、日本語を通しての視覚障害者同士での交流の話に進んで行った。

○オンラインでの元留学生との日本語学習も継続的に行われている。

隔週の土曜日夜には、日本語能力試験N1受験を念頭に、K先生の指導の下、数カ国の元留学生達が参加し、実践的な勉強が継続されている。

○故・浅野理事と共に視覚障害者の日本語学習—日本語教育についての研究活動をされてきた先生方との連携で、海外の視覚障害者の日本語教育について啓発や情報提供をしたり、実際に日本語学習のサポートを行う活動を進めてきた。元留学生たちとも連携した「IAV I 日本語サポート研究会」の本格的な活動が課題となっている。

（4）視覚障害者の国際交流・国際協力、地域交流等

○元留学生達の力を借りて日本レストルーム工業会より、公共トイレを使いやすくするための調査等に協力した。彼らの日本と自国での体験が、共用品の考え方の推進に大切な役割を果たせることを、実践をとおして理解できたことの意味は大きかった。

○国際交流基金「世界のバリアフリー児童図書展」に協力して、留学生達が自国の言葉や点字の説明、それぞれの国の生活などを来場者に説明した。私たちだからこそできる活動で、大変好評だった。

○国際交流の新しい試みとして、①9月の「こもどサロン」で「東京ジャーミー」にマレーシアの留学生と出かけて異文化体験をし、②「グローバルフェスタ JAPAN2024」に出かけて、様々な国際交流活動に接し、今後の活動を考える契機としたり、③「マレーシアフェア 2024 東京」に参加、食べる楽しみから国際交流を考えることの意味を知った。

○こもどサロンを毎月開催した。

○板橋区内のイベントも例年通り参加した。

- ・板橋ふれあい祭に参加（留学生の体験マッサージ、白杖の説明）

- ・ボランティアセンターの企画である「夏ボラ24」を実施（区内の小学生ら15人に視覚障害の理解のための体験をしてもらった）

- ・地元の清水地域活動見本市と障害者週間記念事業に参加して活動紹介を行った。

3. 会館・事務局の運営

○留学生の帰省・交流・研修の場としての舟橋記念会館の役割は、サロン活動、中途視覚障害者の皆さんの勉強と交流の場、地域日本語のサポートの場としての機能が増してきている。そのような中で、施設の全体を点検して、「財産管理・備品整備」の項目の対策を行い、次年度も継続させたい。

○事務局は、あいかわらず仕事量に比して人員不足。それに輪をかけて、経理・諸事務を一手に担っていた中陽子さんが11月に急逝して、一時、大変な状況に陥ったが、本間英一郎さんに来ていただき、危機を脱した。やる仕事を共有して、計画的に進められるようにしていくことの大切さを確認した。

4. 点字図書・テープ図書、CD図書の製作・相談等

○昨年と同様、自治体から封筒に貼る点字シールの作成依頼があった。

○交流のできた区議からの点字名刺作成依頼があった。

○中国語点字や韓国語点字の問い合わせがあり、件数は少ないが、私たちだからこそできる業務なので大切にしていきたい。

○HPを介して日本語点字に関する相談と情報を提供、名刺の点字印刷の注文に繋がったものが増えてきている。

○大学での福祉関係授業で用いる点字テキストの作成を受託し、一般書店を通して販売した。

5. 広報活動

○『ロータス通信』を年間4回、第309号から第312号まで編集・発行した。墨字版、点字版、テープ版と各種媒体を合わせて毎号750部を送っている。

○HPで「ニュース」の項目に月2回は新しい記事をアップすることに務めた。SNSの活用に向けた準備をスタートさせた。

○各媒体で援護協会の活動紹介がされた。

- ・月刊『視覚障害』5月号（地球市民賞受賞特集）発行。

- ・NHK視覚障害ナビラジオに、シリンさん・コーコーさん・マンダハさん・アズリンさんが出演。

- ・NHKワールド、星野ルネさんの漫画とサマツさんの紹介番組放送。
- ・時事通信の取材記事の各紙掲載。

6. 他団体等との交流

○板橋区内で活動する「日本語教室・世界のなかまたち」に低料金での教室貸し出しを合意し、地域の日本語サポート活動の支援を開始した。日本語教師が留学生の日本語サポートを担当してくれたり、サロンに参加してくれたり、生徒さんとの交流など、多くの成果を生み出している。

○夏休みに会館に滞在したファイズさんの研修として、上尾市にある「領家グリーンゲーブルズ」を訪問。これが契機となり、こもどサロンへの参加や、今後の共同のイベント開催など、交流の可能性を広げた。

○地元地域の支え合い活動を進める「おたがいさまネットワーク」に継続的に参加して、地域課題について学びながら地域との交流を深めている。またこちらのロータス発送作業を担ってくれている。

○中途視覚障害者の皆さんが iPhone の勉強会「ゆるスマ」を継続的に開催するため、第4土曜日の午後に多目的室をお貸しした。

○セントルシアでの視覚障害者の指圧センター作りを継続的に進めている黒岩さんが東京に来る際は交流した。同氏が代表を務める、佐賀県国際交流協会 SPIRA（スパイラ）が国際交流基金地球市民賞を受賞した際には、授賞式に参加して喜びを分かち合った。

7. 財産管理・備品整備等

○3階多目的室のエアコンが壊れたので、急遽新しいものを購入。

トイレの改修やキッチンや洗面所の整備など、多くの整備を行った。

○なお、今年度においては遺贈1件、ご遺族からのご寄付1件を受けた。修繕基金として積み立てさせていただき、舟橋会館がさらに使いやすい会館となるよう修繕資金として活用させていただくことにした。

8. 収益事業

○駐車場の運営は、車4台、オートバイ2台、自転車1台が、契約を継続して行っている。

9. 「地の塩基金」「侑心基金」

○海外の視覚障害者のマッサージ支援という「地の塩基金」の趣旨に基づいた次年度の活用計画を作成した。

○「侑心基金」については視覚障害者の日本語支援という基金の趣旨に鑑み、オンラインでの海外との日本語サポートの経費に充てることができた。また来年度の本格的な IAVI 日本語サポート研究会の部屋の設置、活動の本格展開に向けた取り組みをスタートした。

資金収支計算書(1-1)

第一号第一様式

自 令和 6 年 4 月 1 日 至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位：円)

勘 定 科 目			予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動による収支	収 入	駐車場収入	880,000	879,000	1,000	
		その他の事業収入	400,000	434,030	-34,030	
		助成金事業収入	90,000	60,000	30,000	
		経常経費寄附金収入	4,500,000	26,312,141	-21,812,141	
		その他の収入	10,000	71,401	-61,401	
	事業活動収入計 (1)		5,880,000	27,756,572	-21,876,572	
	支 出	人件費支出	2,960,000	4,095,651	-1,135,651	
		事業費支出	1,730,000	1,260,757	469,243	
		事務費支出	3,640,000	5,031,916	-1,391,916	
		事業活動支出計 (2)	8,330,000	10,388,324	-2,058,324	
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)		-2,450,000	17,368,248	-19,818,248		
施よ 設る 整収 備支 等に	支 出	固定資産取得支出	300,000	660,000	-360,000	
		施設整備等支出計 (5)	300,000	660,000	-360,000	
	施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)		-300,000	-660,000	360,000	
そ の 他 の 活 動 に よ る 収 支	収 入	積立資産取崩収入	2,800,000	0	2,800,000	
		事業区分間繰入金収入	3,290,000	0	3,290,000	
		サービス区分間繰入金収入	90,000	0	90,000	
		その他の活動収入計 (7)	6,180,000	0	6,180,000	
	支 出	積立資産支出	0	20,000,000	-20,000,000	
		事業区分間繰入金支出	3,290,000	0	3,290,000	
		サービス区分間繰入金支出	90,000	0	90,000	
		その他の活動支出計 (8)	3,380,000	20,000,000	-16,620,000	
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)		2,800,000	-20,000,000	22,800,000		
予備費支出 (10)		50,000		50,000		
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)		0	-3,291,752	3,291,752		

前期末支払資金残高 (12)	23,232,934	20,906,556	2,326,378	
当期末支払資金残高 (11) + (12)	23,232,934	17,614,804	5,618,130	

事業活動計算書

第二号第一様式

自 令和 6 年 4 月 1 日 至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位：円)

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増 減
サ―ビス活動増減の部	収益	駐車場事業収益	879,000	879,000	0
		その他の事業収益	434,030	844,206	-410,176
		助成金事業収益	60,000	60,000	0
		経常経費寄附金収益	26,312,141	4,867,788	21,444,353
		サービス活動収益計 (1)	27,685,171	6,650,994	21,034,177
	費用	人件費	4,095,651	2,616,444	1,479,207
		事業費	1,260,757	759,146	501,611
		事務費	5,031,916	4,493,880	538,036
		減価償却費	1,203,030	912,149	290,881
		サービス活動費用計 (2)	11,591,354	8,781,619	2,809,735
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)		16,093,817	-2,130,625	18,224,442	
サ―増 ビ減 スの 活部 動	収益	受取利息配当金収益	12	0	12
		その他のサービス活動外収益	71,389	2,002,049	-1,930,660
		サービス活動外収益計 (4)	71,401	2,002,049	-1,930,648
	サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)		71,401	2,002,049	-1,930,648
経常増減差額 (7) = (3) + (6)			16,165,218	-128,576	16,293,794
特別増減の部	収益				
		特別収益計 (8)	0	0	0
	費用	固定資産売却損・処分損	0	1	-1
		特別費用計 (9)	0	1	-1
	特別増減差額 (10) = (8) - (9)		0	-1	1
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)			16,165,218	-128,577	16,293,795
繰越額の 活動部の 増減	前期繰越活動増減差額 (12)		25,513,922	25,642,499	-128,577
	当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)		41,679,140	25,513,922	16,165,218
	基本金取崩額 (14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)		0	0	0
	その他の積立金積立額 (16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (17) = (13) + (14) + (15) - (16)		41,679,140	25,513,922	16,165,218

貸借対照表

第三号第一様式

令和 7 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	当年度末	前年度末	増 減	科 目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	18,395,556	21,619,178	-3,223,622	流動負債	780,752	712,622	68,130
現金預金	16,260,874	19,177,634	-2,916,760	未払費用	680,047	636,926	43,121
事業未収金	228,250	123,276	104,974	給与源泉預り金	74,924	75,696	-772
短期貸付金	1,906,432	2,315,268	-408,836	報酬源泉預り金	13,781	0	13,781
仮払金	0	3,000	-3,000	前受金	12,000	0	12,000
固定資産	224,021,876	204,564,906	19,456,970	固定負債	0	0	0
基本財産	177,816,139	178,234,808	-418,669	負債の部合計	780,752	712,622	68,130
土地	78,812,640	78,812,640	0	純 資 産 の 部			
建物	9,003,499	9,422,168	-418,669	基本金	199,957,540	199,957,540	0
定期預金	90,000,000	90,000,000	0	国庫補助金等特別積立金	0	0	0
その他の固定資産	46,205,737	26,330,098	19,875,639	その他の積立金	0	0	0
器具及び備品	2,826,785	2,885,146	-58,361	次期繰越活動増減差額	41,679,140	25,513,922	16,165,218
権利	224,952	224,952	0	(うち当期活動増減差額)	16,165,218	-128,577	16,293,795
ソフトウェア	154,000	220,000	-66,000				
基金積立資産	43,000,000	23,000,000	20,000,000	純資産の部合計	241,636,680	225,471,462	16,165,218
資産の部合計	242,417,432	226,184,084	16,233,348	負債及び純資産の部合計	242,417,432	226,184,084	16,233,348